

核兵器と核発電を廃棄し、平和で生態系を守る地球を作ろう！

広島原爆投下 76 周年、日本労働者民衆に送る連帯メッセージ

76 年前の 1945 年 8 月 6 日、広島 of 青空上空に原爆が投下され、多くの人々が命を失い、財産が破壊された。生き残った人々も放射能に被爆して死の苦しみを味わい、2・3 世代は依然として苦痛の中で暮らしている。当時、現場で被爆した朝鮮人たちは帰国後、韓国と日本の両方からまともな治療や支援を受けられないまま暮らした。

人類の歴史で数多くの戦争が起き、殺傷と破壊があった。第 2 次世界大戦は、「野蛮で醜い帝国主義戦争」だ。もう一つ記憶すべきは、死の放射能を含め、恐るべき破壊力を持つ核兵器が開発され使用されたという点で、人類に新たな恐怖と災いの毒キノコを持たせた戦争だ。戦争を終わらせる目的で投下した核兵器が、新たな核戦争の始まりとなった。

米国、ソ連、中国、英国、フランスなどの大国は、非対称戦略兵器である核兵器の開発に乗り出した。彼ら自ら危険を感じたのか、70 年に核拡散防止条約 (NPT) を発効させた。しかし、自分たちだけが核兵器を保有するという意図にすぎず、東西冷戦体制の下で核兵器競争は加速化した。1972 年と 1979 年に米ソ間戦略兵器制限交渉 (SALT)、2010 年に米ロ間の第 2 次戦略兵器削減条約 (NewSTART) を締結したが、核兵器の数を減らしただけで、性能は高度化した。

核兵器保有国は排他的に核兵器拡散を禁止させ、自ら核兵器削減交渉を繰り返し広げてきた。しかし、核兵器保有そのものが帝国主義覇権国家になるというのが現実だ。その結果、半世紀が経った今、インド、パキスタン、イスラエル、朝鮮民主主義人民共和国まで核兵器保有国はさらに増えた。米国の原子力空母、原子力潜水艦、核戦略爆撃機が常時駐留する日本は、実質的な核保有国家と言える。今すぐではないが、核発電の過程で抽出されたプルトニウムを基に、いつでも核兵器を作れる国家が虎視眈々と待機している。

2017 年に国連で 122 カ国が集まり、核兵器禁止条約 (TPNW) を締結した。しかし、核兵器保有国はもちろん、米国の核の傘の下にある韓国と日本も同条約に参加しておらず、いまだに批准していない。独占的に核兵器を保有した国家が、他国が核兵器を保有することはできないとする「核交渉」は成功しにくい。地球上に存在するすべての核兵器は、どこの国でも廃棄されなければならない。

一方、核の平和利用を口実にした核発電が広範囲に広がった。「エコ」または「緑 (グリーン)」という加工されたイメージを被せて死の放射能を吐き出す原発を建設して稼働させた。核マフィアは、「核はクリーンなエネルギーであり、安全に管理できる」と嘘の宣伝をした。しかし、核発電の科学技術先進国と自負した米国スリーマイル (1979 年)、旧

ソ連チェルノブイリ(1986年)、日本の福島(2011年)で原発が爆発事故などを起こした。

原発による事故、放射能漏れと被ばく、温排水の海洋放流は隠蔽されている。原発周辺の住民のなかに高く見られるガンの発病率について、政府と原発関連機関は、「原発から排出される放射能は、自然放射能の水準だ」と強弁している。裁判では関連性が確認できないという理由で棄却されている。特に、温排水の排出による生態系破壊、海水温度上昇、毒劇性化学物質の排出は非常に深刻だ。

このような状況で、日本政府は福島の放射能汚染水を薄めることができるという理由で海に放流しようとしている。しかし、放射能核種は数十万年が経っても消えないため、日本政府の主張は明白な嘘だ。核発電を続ける場合、最も深刻な問題は100万年間安全に保管しなければならない使用済み核燃料(核廃棄物)が引き続き発生するという点だ。しかし、現在の技術では、これを安全に処理する方法がない。

核発電の危険から脱するための脱原発運動が広範に展開された結果、2022年まで原発ゼロを宣言したドイツを皮切りにスウェーデン、ベルギー、スイス、台湾などが脱原発を推進している。日本は福島原発爆発事故後、一時的に「原発ゼロ」政策を取ってきたが、現在は再稼働を増やし、さらには新たな原発建設まで試みている。韓国は、文在寅政権になって脱原発を宣言したが、現在は電力生産における原発の割合がむしろ増えている。

脱原発の運動と政策は、気候危機を迎えて危機に直面している。各国政府は、2015年の気候危機パリ協定により、2050年までに炭素排出と吸収を等しくし純排出ゼロとなる炭素ニュートラル(Net-Zero)を口実に、再び従来の原子力発電の拡大や小型原発の建設などの新たな陰謀を企てている。こんな状況で、既存の環境・脱原発運動体も曖昧な態度を取り、代案、代替・再生エネルギーに目を転じ、脱原発運動に背を向けようとしている。

電力生産が必要だという理由で核発電を続けることは、資本の利潤と貪欲に酔い、破滅的な災いを生むことだ。今のような資本主義的な生産と消費は、資源枯渇と生態破壊をもたらし、これ以上安全な未来と子孫の生活を保障することはできない。同時に帝国主義戦争の可能性が高まる中、核兵器保有国家が増え、その性能が高度化すれば、人類はますます災いのドロ沼に陥るだろう。

8.6 広島原爆投下76周年を迎え、あらためて地球規模の核発電と核兵器を廃棄することを求める。同時に反核と脱原発運動にさらに邁進することを誓う。本日、広島平和公園原爆ドーム前で開かれる反戦・反核・反原発・被爆者解放のための追悼集会「青空式典」を支持し連帯メッセージを送る。AWC韓国委員会はAWC日本連絡会議、被爆2世の会、8.6広島青空式典実行委員会とともに、核発電と核兵器のない世界に向けて前進していく。

2021年8月6日

AWC韓国委員会